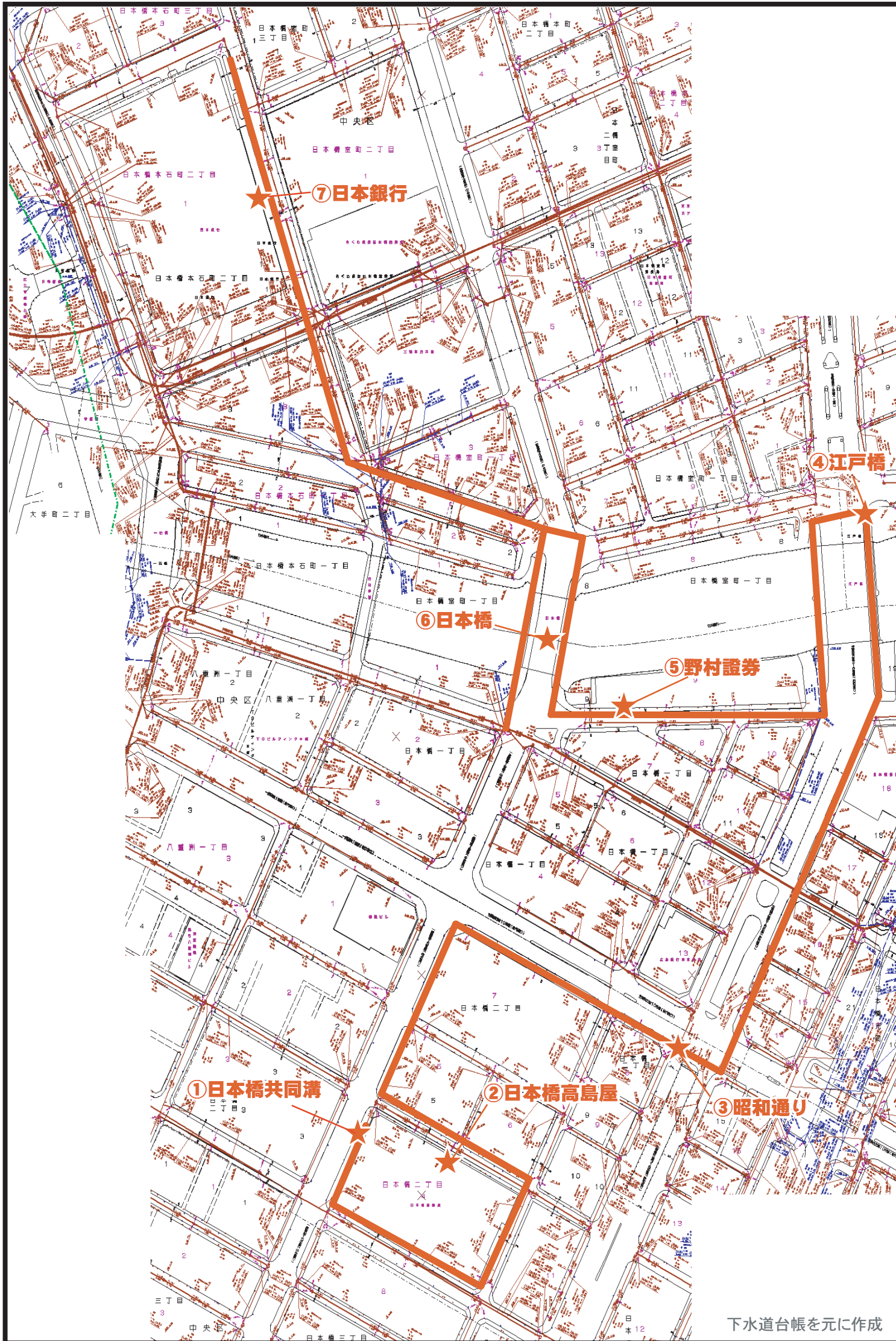




日本橋架橋100周年記念 日本橋と東京市章を巡る鉄蓋散策



① 日本橋共同溝

普通はあまり覗くことのできない共同溝の内部を覗くことのできるポイントです。電話・電気・通信の他に水道・下水道等の設備を含むものを「共同溝」、含まないものを「電線共同溝」(C.C.BOX)と呼びます。他にも根拠法や埋設物の条件によって、「キャブシステム」「雑線類共同収容溝」「単独地中化」「情報BOX」などの仲間があります。

② 日本橋高島屋周辺

日本橋高島屋周辺には珍しい蓋がたくさんあります。「自動洗滌槽」の蓋、都章の入った古い蓋、建設省共同溝の蓋、電話番号の入った蓋などが見られます。

蓋に書かれた電話番号は、

坂下工務所、電話下谷(83)五七六九番ですが、これを現在の電話番号に書き下すと03-3831-5769となります。掛けてみましたが現在は使われていない番号でした。

参考: 文明堂東京本社(電話は二番)

日本橋局(35)二番 → 03-351-0002
→ 03-3351-0002

③ 昭和通り

都章に似た「灯台」の地図記号が入った「街燈」と書かれた蓋が残っています。昭和通りは昭和5年の開通ですので、この蓋もその頃の設置だと思われます。

④ 江戸橋

「泥吐室」と書かれた上水道の古い蓋を見ることができます。「デート室」と読むと何だか甘酸っぱい感じがしますが、残念ながら正しい読みは「どろはきしつ」だそうです。水道管に溜まった泥を川に流すための弁が格納されています。

⑤ 野村證券

野村證券の本社から東京証券取引所へ続く小道の地下には通信用の専用線が埋設されているようで、地上には屋号「ヤマト」の入った蓋が多数見られます。なかなか見ることのできない「靴洗栓」の蓋も見ることができます。

⑥ 日本橋

蓋ではありませんが、橋の中央に「日本国道路元標」が設置されています。橋の欄干には、東京市章を持った狛犬が設置されています。東京市章には「日」「本」「東」「京」「市」の五文字が隠されています。

東京市章の制定は明治22年12月、現在の19代目にあたる日本橋の開橋は明治44年(1911年)4月3日で、今年は丁度100周年にあたります。ちなみにマンホールの蓋でおなじみ?の下水道局紋章は、同じく明治44年10月26日に東京市下水改良事務所の紋章として告示されています。こちらも今年で100周年です。

⑦ 日本銀行

日本銀行周辺では、古い「制水エン」の蓋の他に、珍しい「防火水道」の蓋も残っています。さらに色付きの中央区の蓋も何枚か確認することができます。中央区の花と木、「ツツジ」と「ヤナギ」がデザインされています。

今回の見所

